

UNION NEWS

<https://www.jrtu.jp>

東海旅客鉄道労働組合

E-mail sodan@jrtu.or.jp

東京本部 〒108-0075 東京都港区港南2-1-95 (03)6718-1251
JR東海品川ビル内
名古屋本部 〒453-0002 名古屋市中村区名駅1-1-13 (052)586-3127

JR東海ユニオン

(1部20円)組合員の購読料に含む

発行人 尾内 裕昭 / 編集人 宮崎 勝典

「全職場総対話行動」開催中 ～コロナ禍を経て全分会が対面で開催～

コロナ禍を経て、各級機関が活動を活性化させていく中、全165分会が対面開催により取り組む、秋の「全職場総対話行動」が10月2日からスタートし、約1箇月が経過した。「全員参画」を合言葉に、開催主体である分会を中心に各級機関が丸となった取り組み、多くの組合員が参画し、積極的かつ建設的な議論が交わされている。

JR東海ユニオンは、充足以来、「全職場総対話行動」を最も重要な取り組みと位置づけ、歴史を積み重ねてきており、中期目標「UNION FUTURE ↓2027」

「組織の活性化」において中核をなす取り組みとしている。「全職場総対話行動」の基本的な意義は、組合員一人ひとりとの方角の対話を通じ、これまでの取り組みや交渉経過、成果についてその場で丁寧に組合員の理解を深めること、「ぎょうむれば」とにはすべて記載しきれない行間のやり取りを共有すること、組合員からの意見・要望の熱量をその場で共有し、様々な課題を把握することにより解決に向けた方向性を討議する場でもあること、これらが労使協議等にも生かされ労働条件の向上や職場環境の改善を実現してきたこと、役員育成に有益な場であることなどにある。

本協約「改訂交渉で会社回答に大きな変化が見られ、「人事考課や昇格制度のあり方、主任層の育成や強化、技術力を持った社員へのよりきめ細やかな処遇、職種毎に期待される役割に応じた人事制度の構築、子育て支援の拡充を含む女性活躍の推進、さらには地域間の賃金差の是正に向けた手当のあり方」「運輸系統社員の運用見直し」などについて今後議論を深めていく段階に入った。JR東海ユニオンが会社と真摯で建設的に議論していく際に最も大切にしているものは、言わずもがな組合員の声・意見であり、「全職場総対話行動」を主軸として集約した組合員の声・意見に基づき、労使交渉・協議に臨んでいく。こうしたことから、「全職場総対話行動」の重要性が以前にも増して高まっている。

この間の「全職場総対話行動」においては、そうした制度・運用や労働条件に関わる



伊那松島運輸区分会

第30回賃金実態等調査へのご協力 大変ありがとうございました。

各級機関の皆さまのご尽力により、昨年度よりも多くの調査表を集約することができました。

100%集約分会は、99分会と昨年度よりも増加し、調査期間が僅少の中でのご協力で厚く御礼申し上げます。皆さまの賃金や働き方改善等に対する期待感の表れだと受け止めております。

今後、調査結果を詳細に分析し、各種交渉に反映させてまいります。また、分析が完了し次第「ぎょうむそくほう」や「ぎょうむれば」とにて、結果をお知らせいたします。

